

ねん がつ にち  
2022年11月27日

たいこうせつだいいちしゅじつ  
待降節第一主日

きくち いさおだい しきょう  
菊地 功大司教 メッセージ

たいこうせつ  
待降節となりました。今日から、降誕祭に向けての霊的な準備期間が始まります。待降節  
ぜんはん おも よ お しょうてん あ こうはん すく めし たんじょう しょうてん あ  
の前半は主に世の終わりに焦点を当て、後半では救い主の誕生に焦点を当てながら、  
ぜん きかん つう ほんじつ ふくいん しる め き さ ようい  
その全期間を通じて、本日の福音に記されている、「目を覚ましていなさい」、「用意して  
いなさい」という主の言葉を心に留め、それに生きるようにと促しています。

たいこうせつ  
待降節という言葉自体が象徴するように、わたしたちは救い主の再臨を待ち望んでい  
ます。当然ですが、待つことには様々な態度が思い起こされます。いつだろうとそわそ  
わしていることも待つことですが、なにもせずに眠りこけていたとしても、それは待つ  
ていることに変わりはありません。しかしイエスの指摘される「待つ」姿勢は、目を覚  
まして準備すると言う二つの行動を柱とする待つ姿勢です。わたしたちは時のしるし  
じゅん び い ふた こうどう はしら ま しせい  
をよく識別できるように、常に目覚めたものでありたいと思います。より良い準備がで  
きるように、主ご自身の模範に倣って、愛といつくしみに積極的に生き行動するもので  
ありたいと思います。助けを必要とする人々のところへ出向いていこうとする、積極的  
な待つ姿勢の教会でありたいと思います。

きょうかい  
教会は11月の第三日曜から第四日曜までを、「聖書週間」と定めています。今年は王  
じゅじつ たいこうせつだいいちしゅじつ せいしよしゅうかん せいしよしゅうかん  
であるキリストの主日から待降節第一主日までが、聖書週間です。聖書週間は、すべ  
ひと しんと せいしよ つよ かんしん した かみ ころ い さまざま  
ての人、とくに信徒が、聖書により強い関心を持ち、親しみ、神の心に生きるように、様々  
けいはつかつどう おこな  
な啓発活動を行うときとされています。

だいに  
第二バチカン公会議の啓示憲章には、こう記されています。

「教会は、主の御からだそのものと同じように聖書を常にあがめ敬ってきた。なぜな  
ら、教会は何よりもまず聖なる典礼において、たえずキリストのからだと同時に神のこ  
とばしよくたくの食卓からいのちのパンを受け取り、信者たちに差し出してきたからである。・  
かみ れいかん う いちどかぎ えいきゅう もじ しる せいしよ かみ じしん か  
・神の靈感を受け一度限り永久に文字に記された聖書は、神ご自身のことばを変わらな

いものとして<sup>つた</sup>伝え、また<sup>よげんしゃ</sup>預言者たちと<sup>しと</sup>使徒たちのことばのうちに<sup>せいれい</sup>聖霊の<sup>こえ</sup>声を<sup>ひび</sup>響かせているからである。(21)」

あらためて<sup>せいしょ</sup>聖書を<sup>ひもと</sup>紐解き、<sup>ひび</sup>響き<sup>わた</sup>渡る<sup>せいれい</sup>聖霊の<sup>こえ</sup>声に<sup>みみ</sup>耳を<sup>かたむ</sup>傾けましょう。